

ローマ大学 Caprara 教授 ポジティブ志向性の心理学 講演会
(第 18 回グローバル COE 主催講演会：ユニット A・B・D)

グローバル COE 主催の講演会を以下のように開催します。講演は英語で行います。申し込み不要、入場無料です。

日 時：2009 年 9 月 7 日 (月) 午後 4 時 00 分～5 時 30 分

場 所：京都大学芝蘭会館別館 2F 研修室 1

<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/siran/kotsu.htm>

講演者：Gian Vittorio Caprara (ローマ大学教授)

題 目：Positive orientation and optimal psychological functioning
(ポジティブ志向性と最適な心理的機能)

お問合せ：楠見孝 kusumi@educ.kyoto-u.ac.jp (@が全角なのでコピー&ペーストするときには注意してください)

関連資料：

■Caprara 教授 ポジティブ志向性の心理学 講演会

ローマ大学の Gian Vittorio Caprara 教授が山口勸東大教授の招聘により来日します。Caprara 教授は、人格心理学、動機づけ研究の第一人者であり、Bandura と長年自己効力感 (self-efficacy) の研究を長く進めてきました。現在は自尊心 (self-esteem) や幸福感 (psychological well-being) の根幹にある positivity にも関心を持っています。さらに、positivity に関する行動遺伝学的な研究も進めています。Caprara 教授は 400 編を超える論文を執筆し、Zimbardo との政治家のパーソナリティに関する共著論文は *Nature* に掲載されています。

今回は、幸福感の国際比較に関するグローバル COE のプロジェクトとして、ユニット A・B・D が協力して京大での講演会を企画しました。関心のある多くの方の参加をお待ちしています。

ご講演要旨：

Previous findings attest to the stability over the course of life and to the generality across cultures, of positive orientation as a pervasive mode of viewing at the world and facing reality. Positive orientation affects the ways people construe their experience and predispose to action. Current findings point to self efficacy beliefs as instrumental to change positive orientation in view of optimal functioning.

Caprara 教授の HP

http://dippsicologia.psi.uniroma1.it/Caprara_en.htm